

平成26年9月5日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴうどんこ病の防除について

夏期のイチゴうどんこ病菌は、イチゴ葉に付着していても菌糸を形成しにくく、発生が分かりにくい状況で夏越しします。このとき、夏の気温が高いと病原菌は死滅しやすく、逆に気温が低いと生き残りやすいことが分かっています。今夏は平年に比べ気温が低く、日照時間が少なかったため、病原菌が感染しやすい状況であったと思われます。

また、福岡管区気象台が8月28日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報では、気温は平年並の確率が50%、降水量は平年並又は少ない確率がともに40%と予想されており、うどんこ病が発生しやすい気候（気温20℃付近、やや乾燥）が出現しやすくなると考えられます。

当センター病虫害チームが8月下旬に行った巡回調査では本病の発生は認められませんでした。各振興局の調査ではすでに発生が確認されています。今後本病の発生が多くなると考えられますので、育苗圃での速やかな防除に努め、本圃に感染苗を持ち込まないようにしましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 発病すると防除が困難になるので、予防散布を徹底する。
- (2) 発病葉は伝染源となるので、取り除き圃場外に埋めるなどして適切に処分する。
- (3) 葉裏や下位葉にも薬剤がしっかりとかかるように散布する。
- (4) 本圃に持ち込むと防除が困難となるため、育苗期の防除を徹底する。
- (5) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病虫害チームホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」（下記アドレス）を参照し、農薬使用基準を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)